



山の天気は、どうして変わりやすいの

気温や風の強さなどのちがいによる

山に登ると、朝は天気がよくても、午後になると、くもったり、雨が降ったりしたことを、経験したことがあるでしょう。山の天気の変り方は、地上よりも速く変わることが多いのです。

山の天気が地上よりも変わりやすいのは、山のしゃ面にそって風がふき上がるために、ほかよりも上昇気流が起きやすく、山の気温が地上よりも低いことや、山が高くなるにつれて風が強くなったりするほかに、上空にある雲の影響を、受けやすいことなどによると考えられます。

山へ登ると気温が下がります。その割合は、高さが100メートルにつき、約0.6です。8月の初めでも、3000メートルの山では、気温が9ぐらいで、東京の3月が11月の終わりぐらいの気温です。

つるし雲が現れると、雨が降る

山の風下側に、一つの雲が、いつまでも同じ所に、うかんでいることがあります。形は大きくなったり、小さくなったりしますが、うかんでいる場所は変わりません。これを、つるし雲といいます。

また、山頂にも、かさ雲がかかることがあります。この二つの雲が、同時に現れたときは、天気が急に変わって、12時間以内に雨が降り出すといわれています。そのほかに、レンズ状や帯状の雲が山にうかぶと、悪い天気になります。(監修・村山 貢司)

